

第 70 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

日時：2026 年 8 月 5 日（水）

全体会・部会①・部会② 10:30～12:00（予定）

場所：JR 東日本現地会議室

次 第

【部会②】

（1） 開会

（2） 京急線連立 品川駅部 仮設化（仮受け杭の盛替え）工事計画について 【資料 1】

（3） 京急連立仮受け進捗に伴う既設構造物撤去・駅街区南棟（橋上駅舎）躯体施工について
【資料 2】

（4） その他

（5） 閉会

第34回高輪築堤調査・保存等検討委員会（2023.8.2）【部会②】資料3 再掲

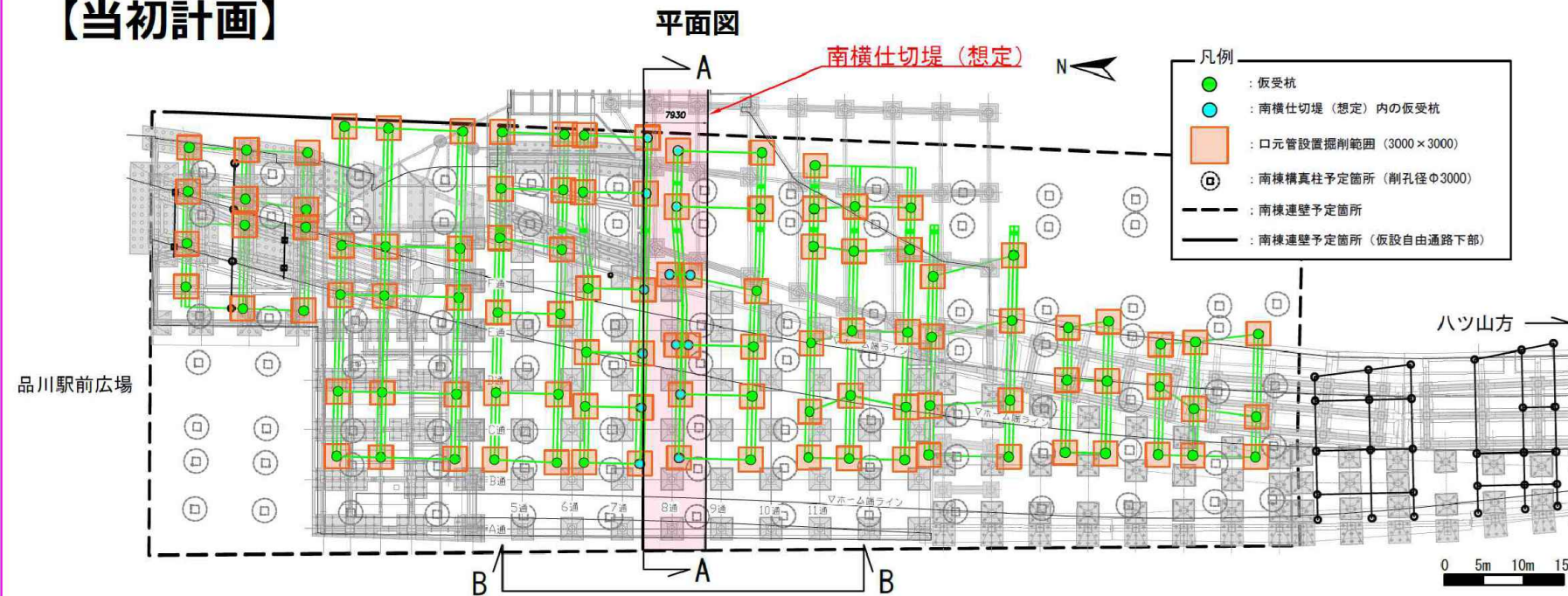
京急線連立 遺構への影響低減に向けた仮設計画の見直しについて

2023. 8. 2

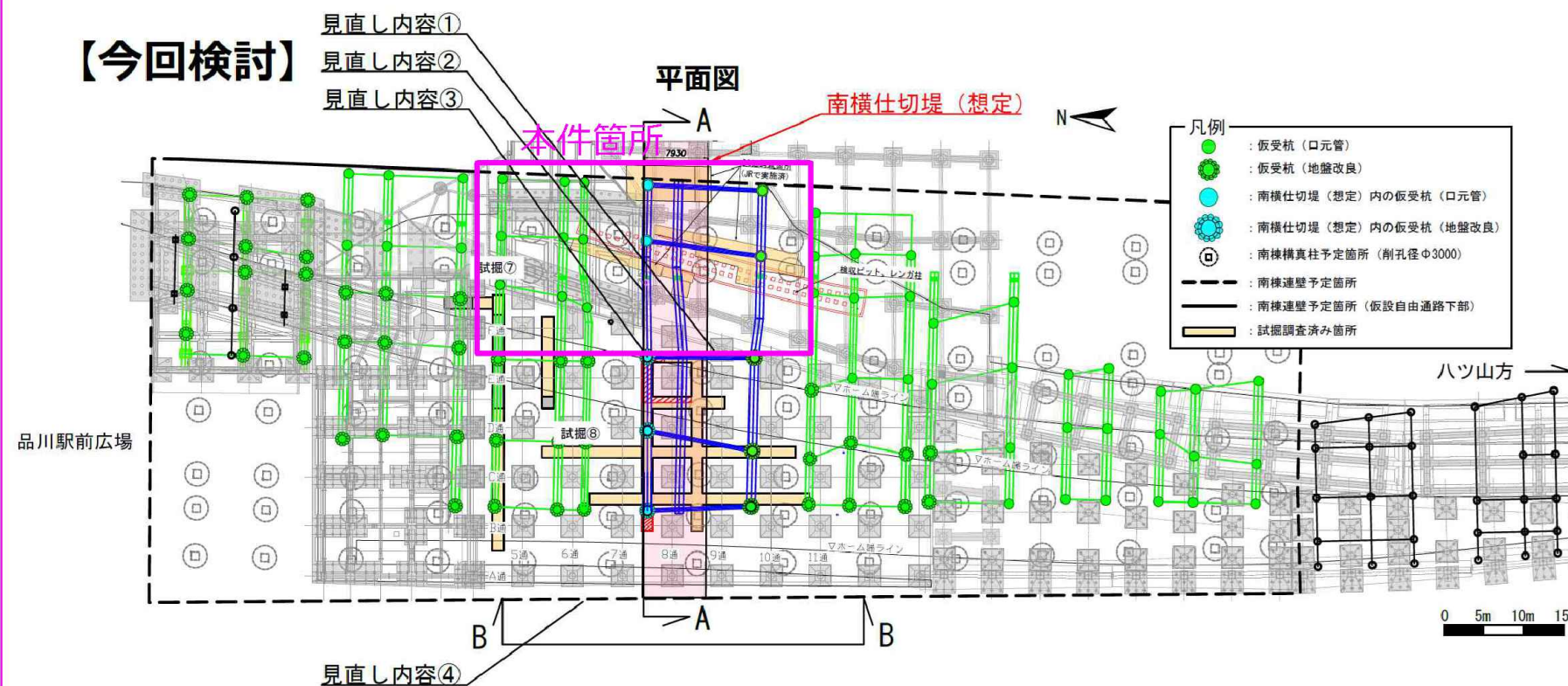
資料 3

2

【当初計画】



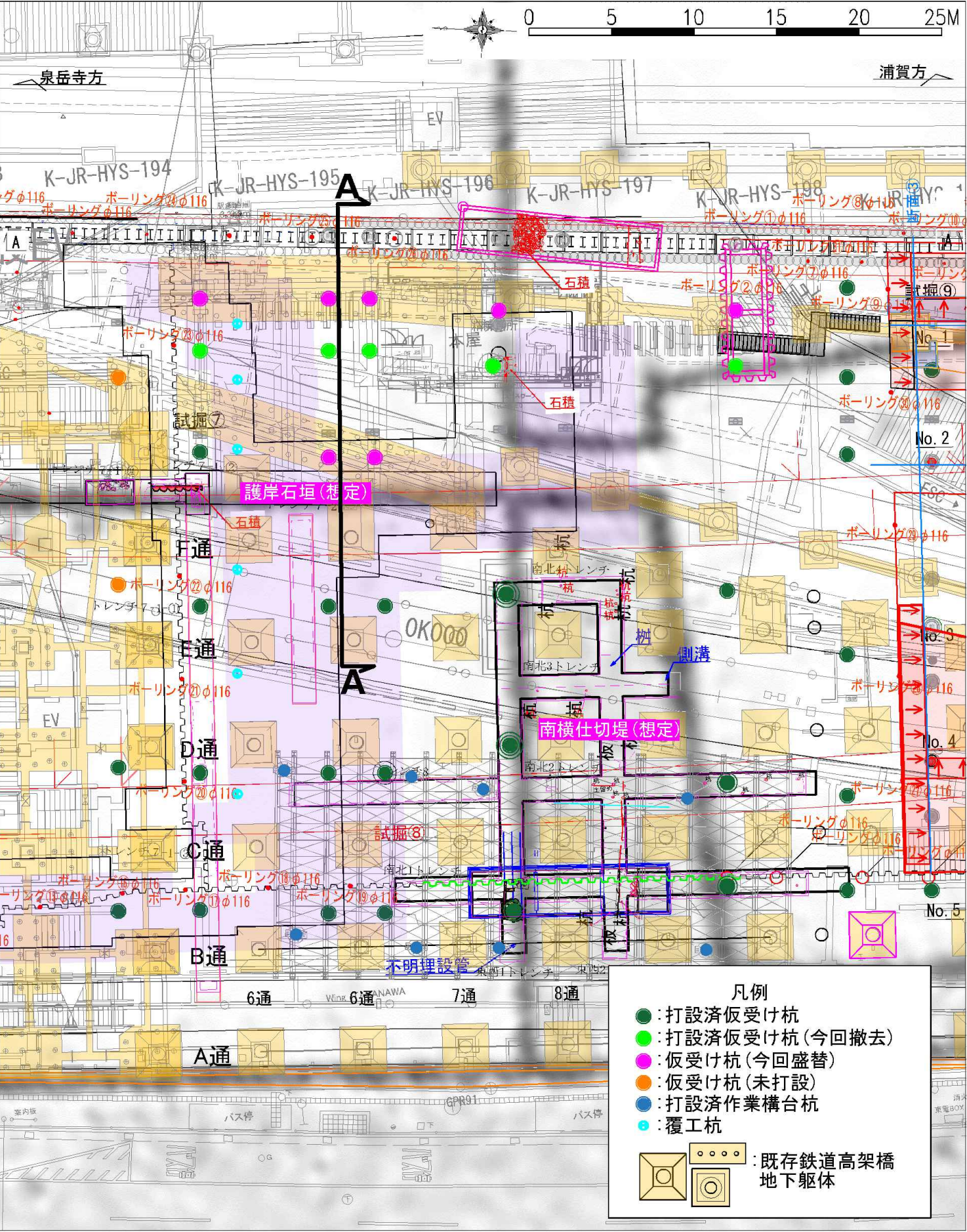
【今回検討】



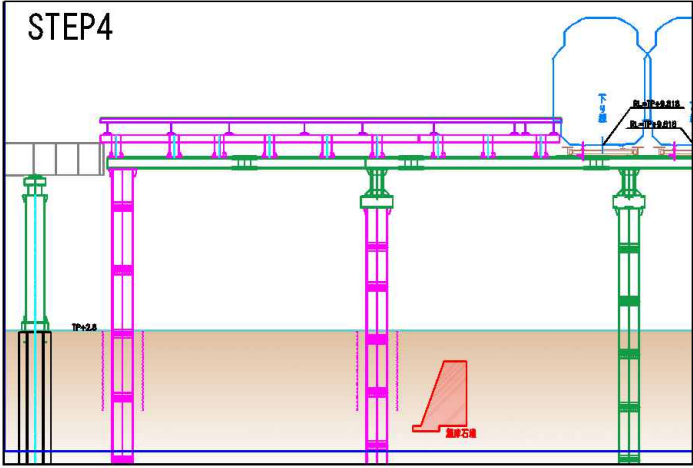
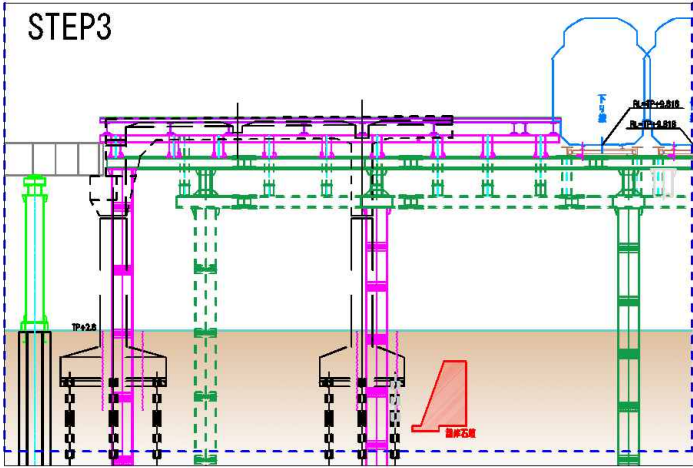
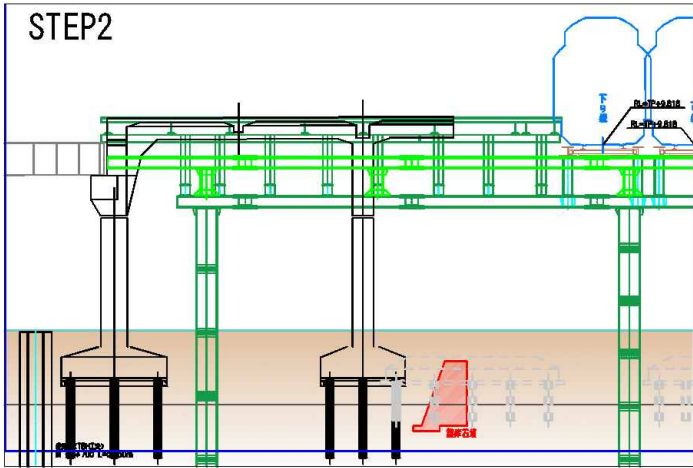
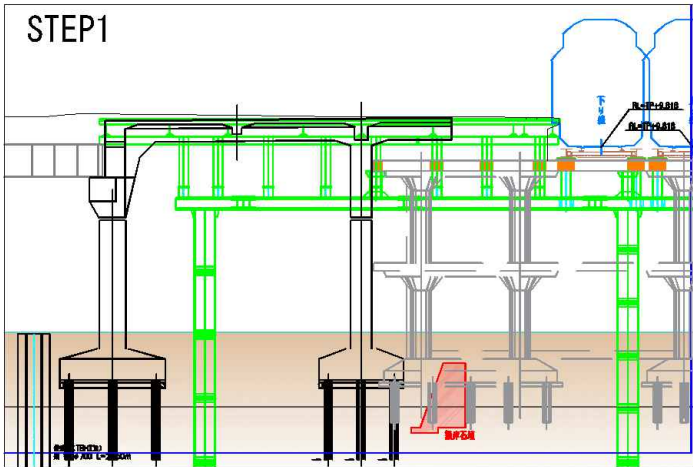
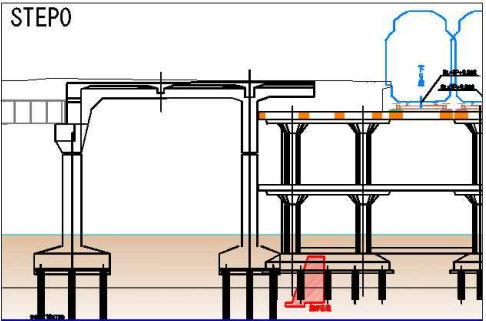
【見直し内容】

- ① 仮受杭（南北方向）を梁構造を特殊構造とすることで仮受スパンを拡大（約4.9m⇒約13.5m）し、南横仕切堤内中央の杭本数を8本→0本に減
- ② 仮受杭（東西方向）を仮受杭の配置変更および仮受スパンを拡大（約12m⇒約14.5m）することで、南横仕切堤北端の杭本数を6本→5本に減
- ③ 南横仕切堤北端の杭を全て、試験調査済み範囲内（TP0まで掘削+以深を探針）等に配置変更
- ④ 杭打設に伴う口元管の設置方法を変更することで、掘削面積を約855㎡（約9㎡/箇所）⇒約175㎡（約1.9㎡/箇所）に縮減

1. 平面図

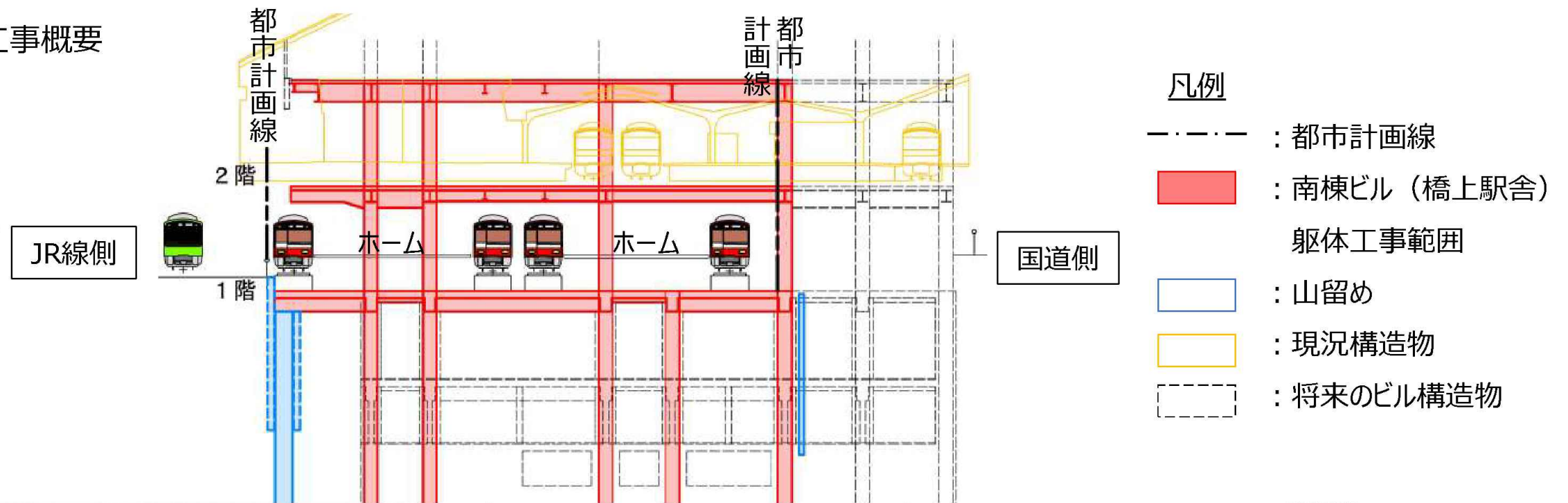


2. 施工ステップ図 (A-A断面)

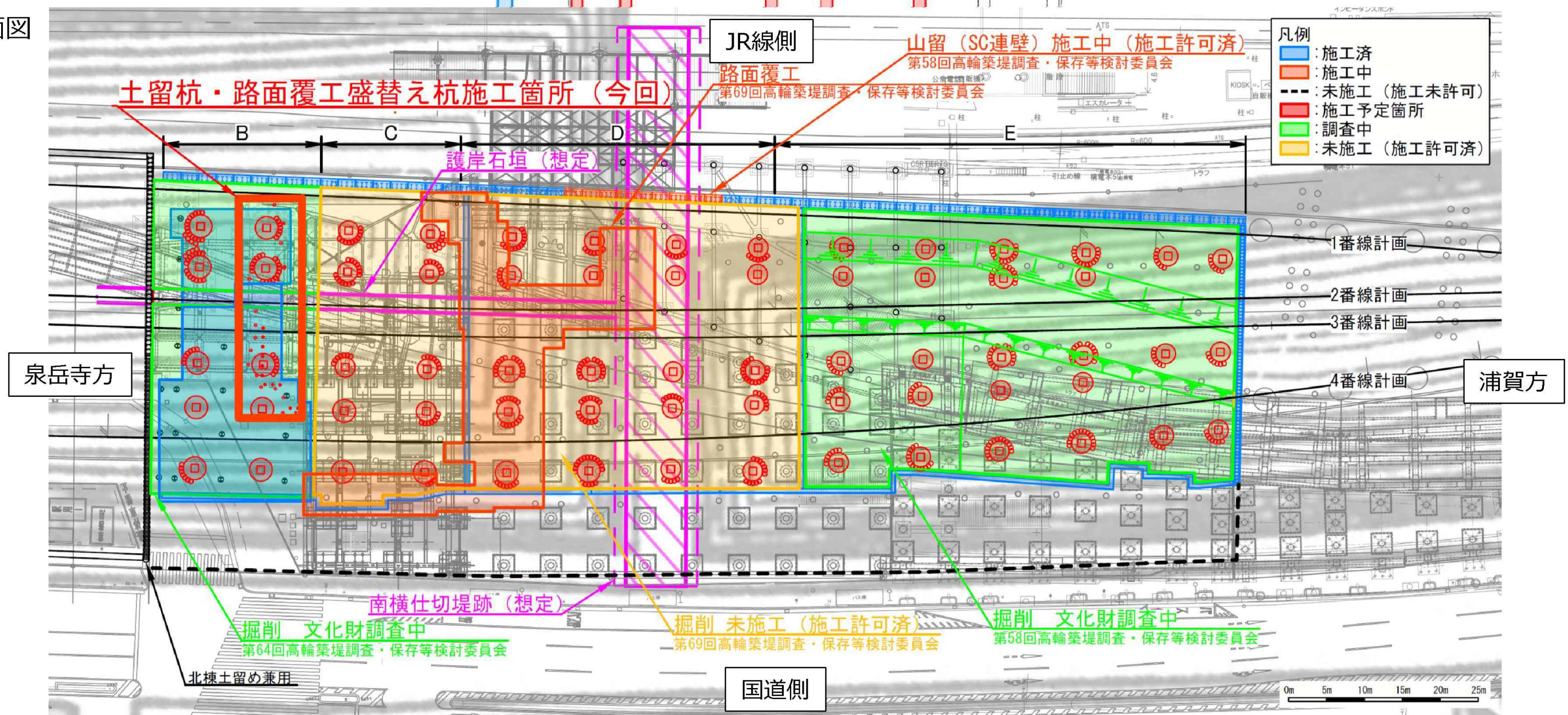


1. 南棟ビル（橋上駅舎）躯体工事概要

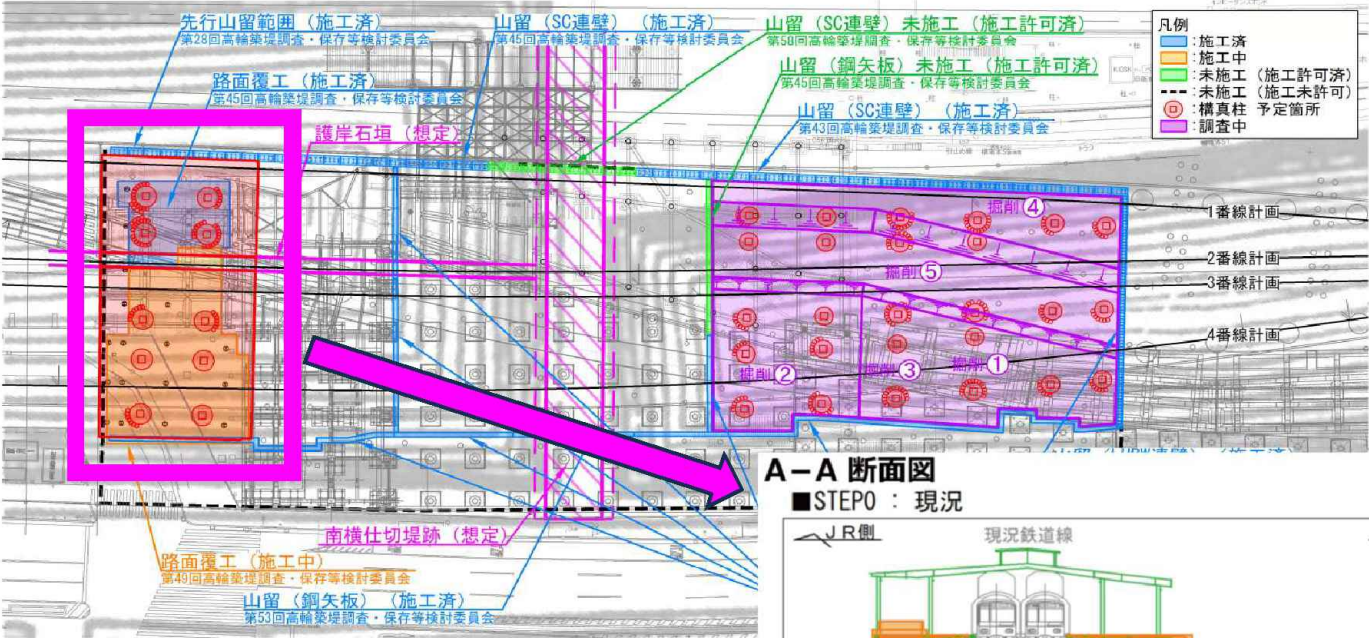
京急線連立事業と合わせ、
品川駅の駅舎躯体
（鉄道施設やコンコースが
収まるビル建物）を構築する。



2. 平面図

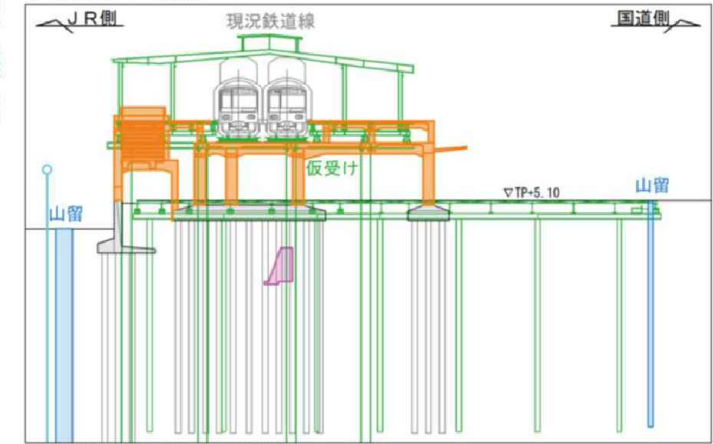


3. これまでの経緯 第64回高輪築堤調査・保存等検討委員会（2026.2.4）【部会②】資料4 一部抜粋 再掲

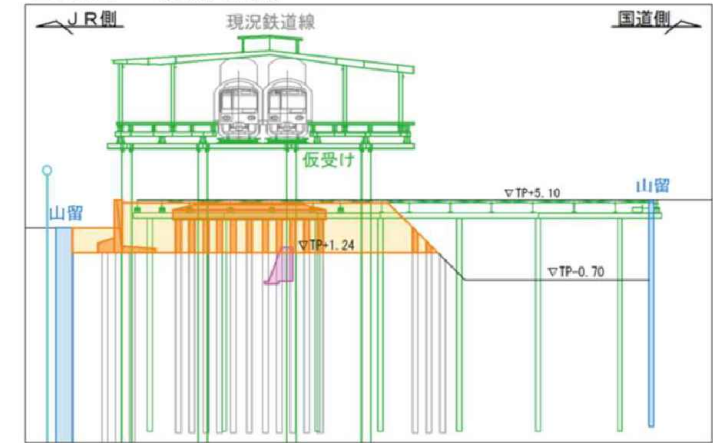


A-A 断面図

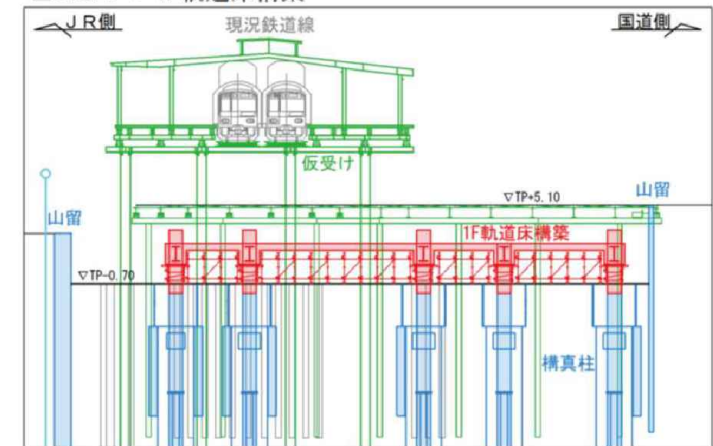
■STEP0：現況



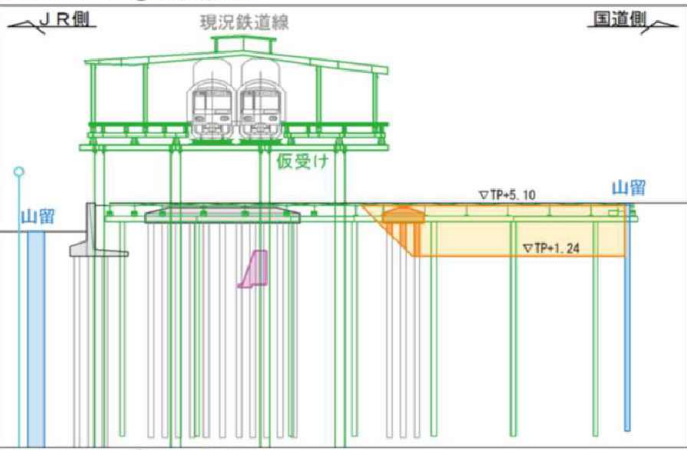
■STEP3：③範囲掘削



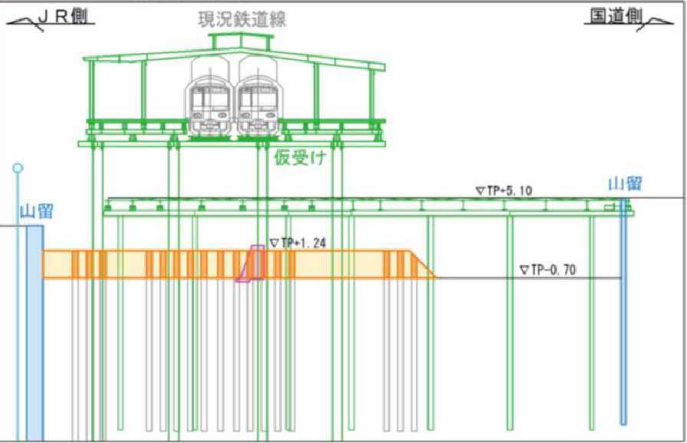
■STEP6：1F軌道床構築



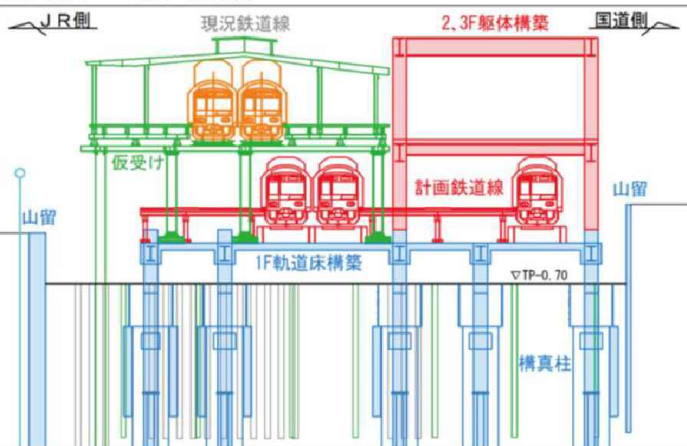
■STEP1：①範囲掘削



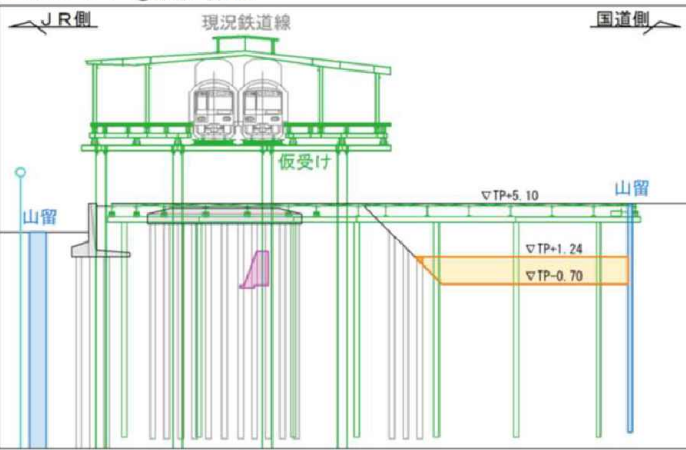
■STEP4：④範囲掘削



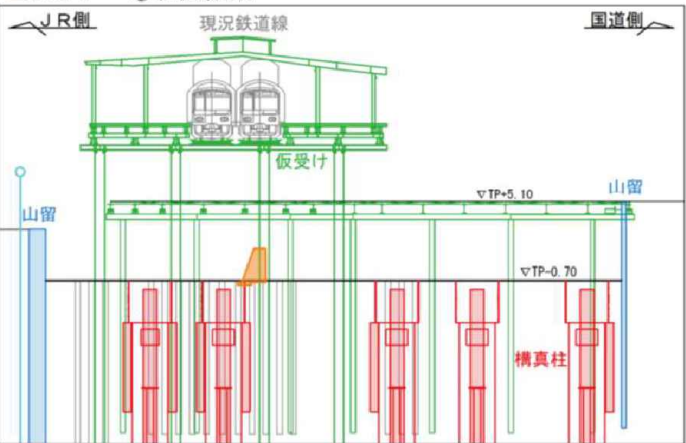
■STEP7：地平化切替



■STEP2：②範囲掘削



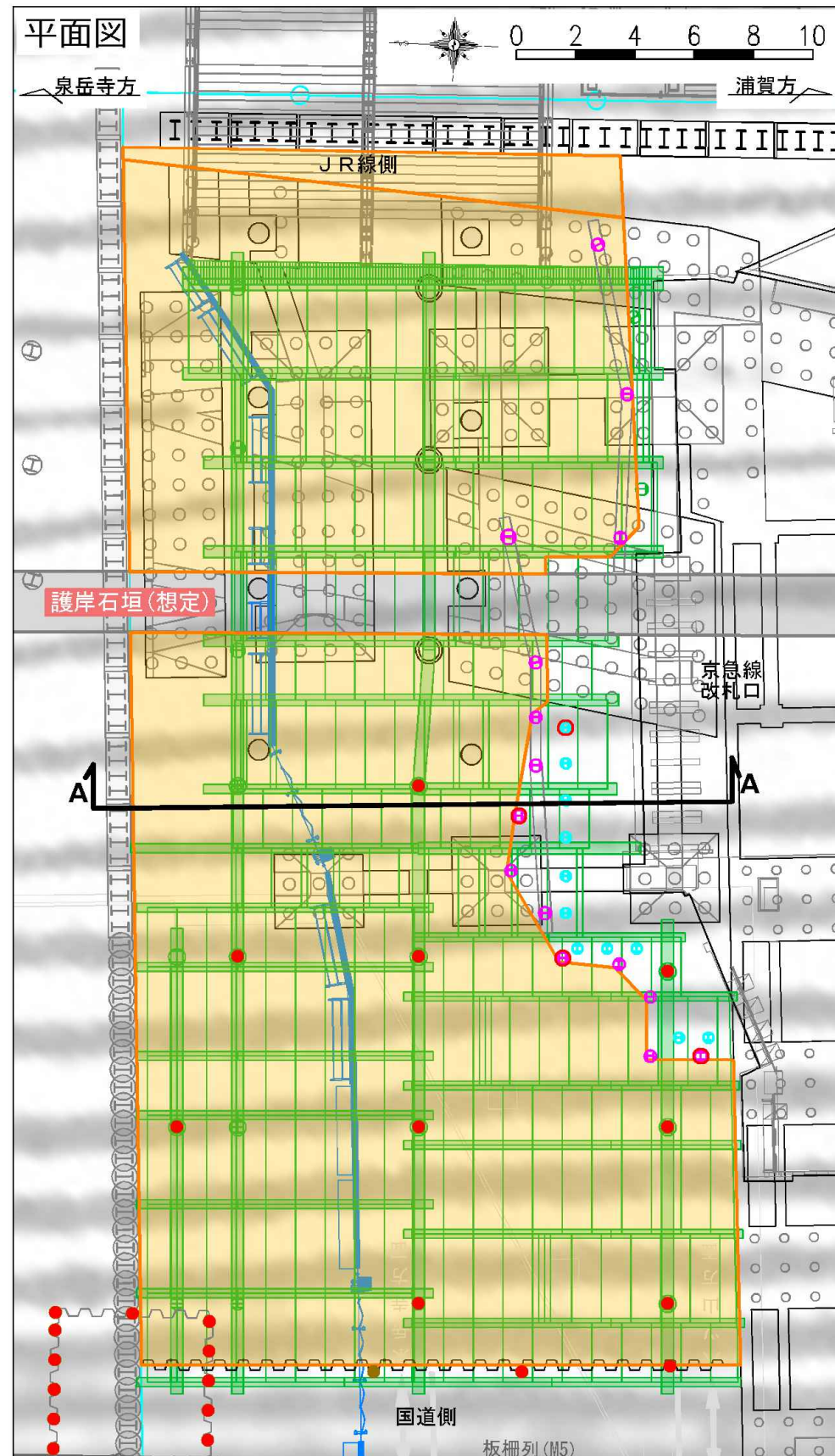
■STEP5：⑤範囲掘削



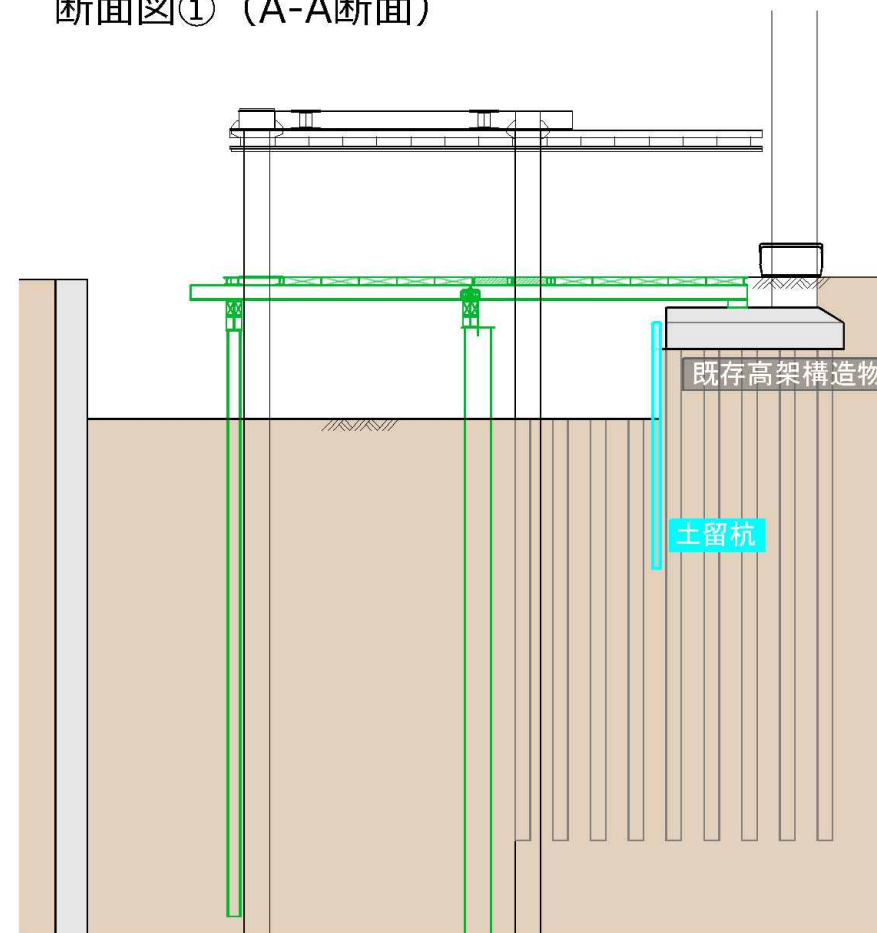
凡例

- 撤去工・掘削工
- 仮設工
- 本設工

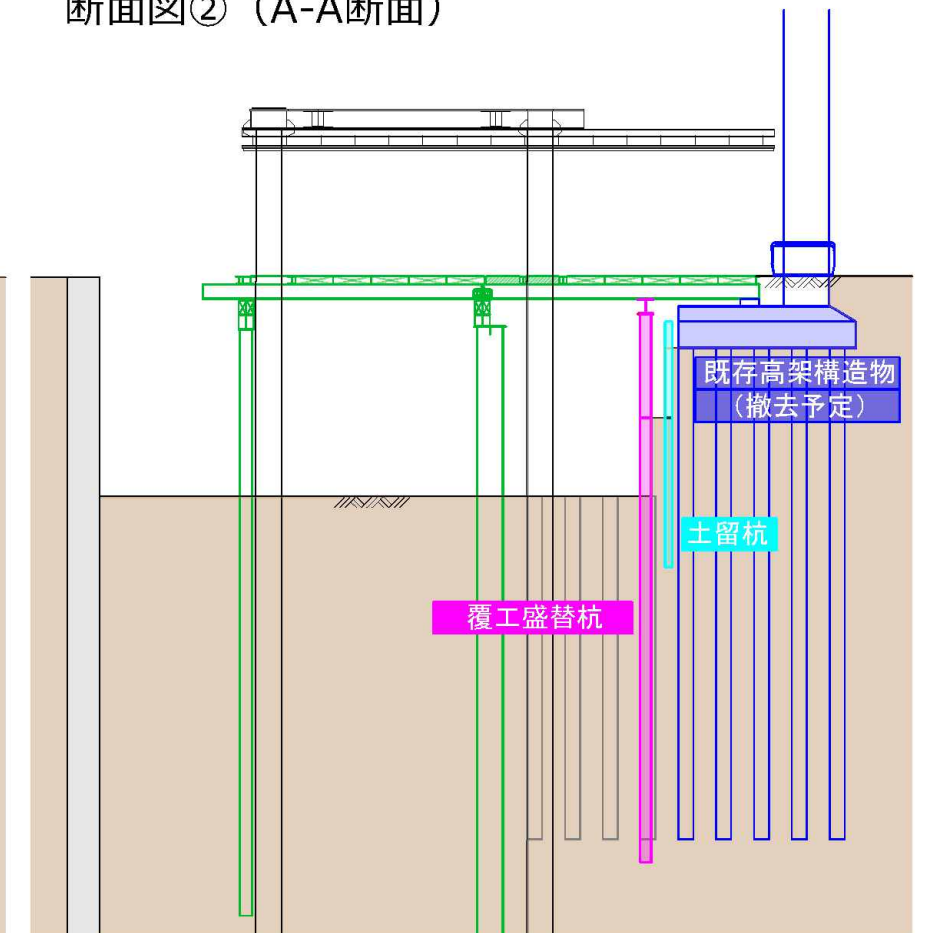
4. 土留め杭・路面覆工盛替え杭の位置・想定される文化財・ボーリング調査箇所について



断面図①（A-A断面）

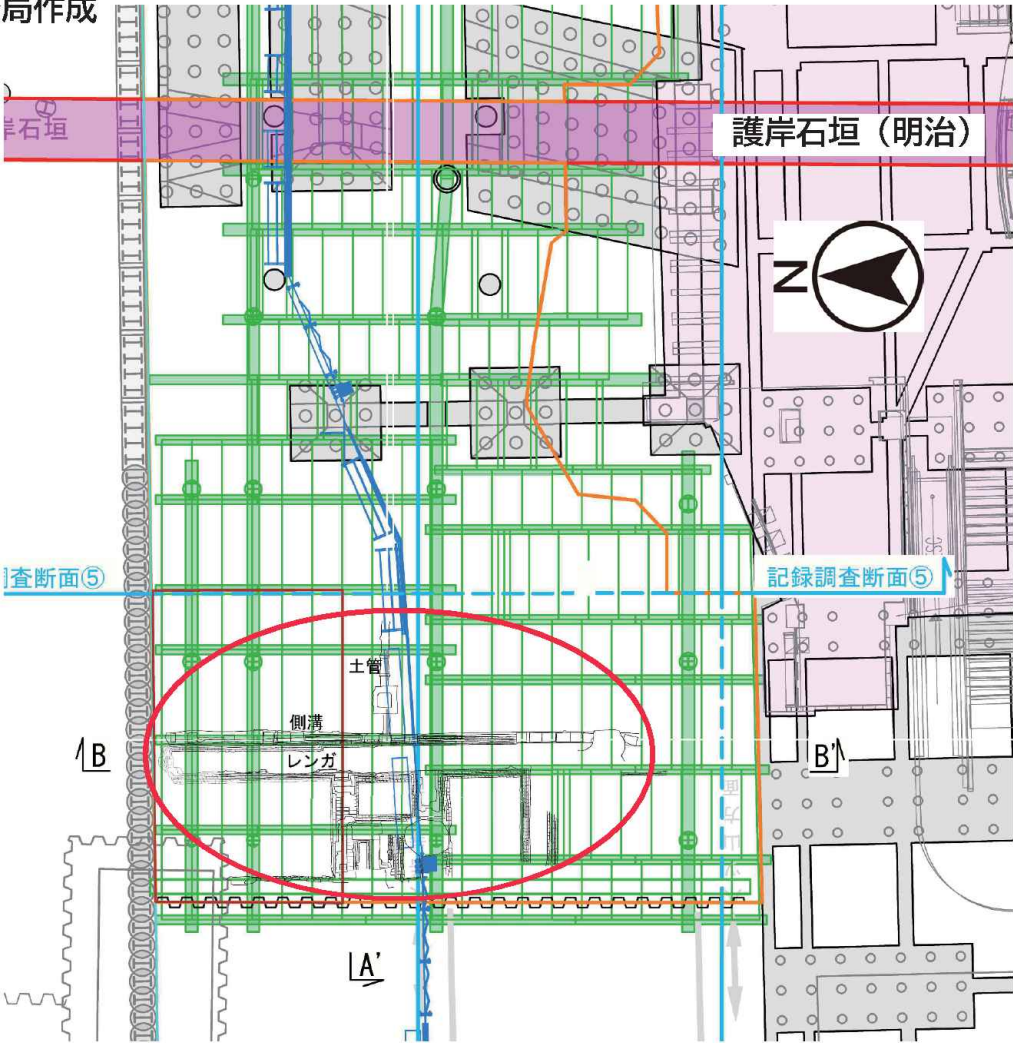
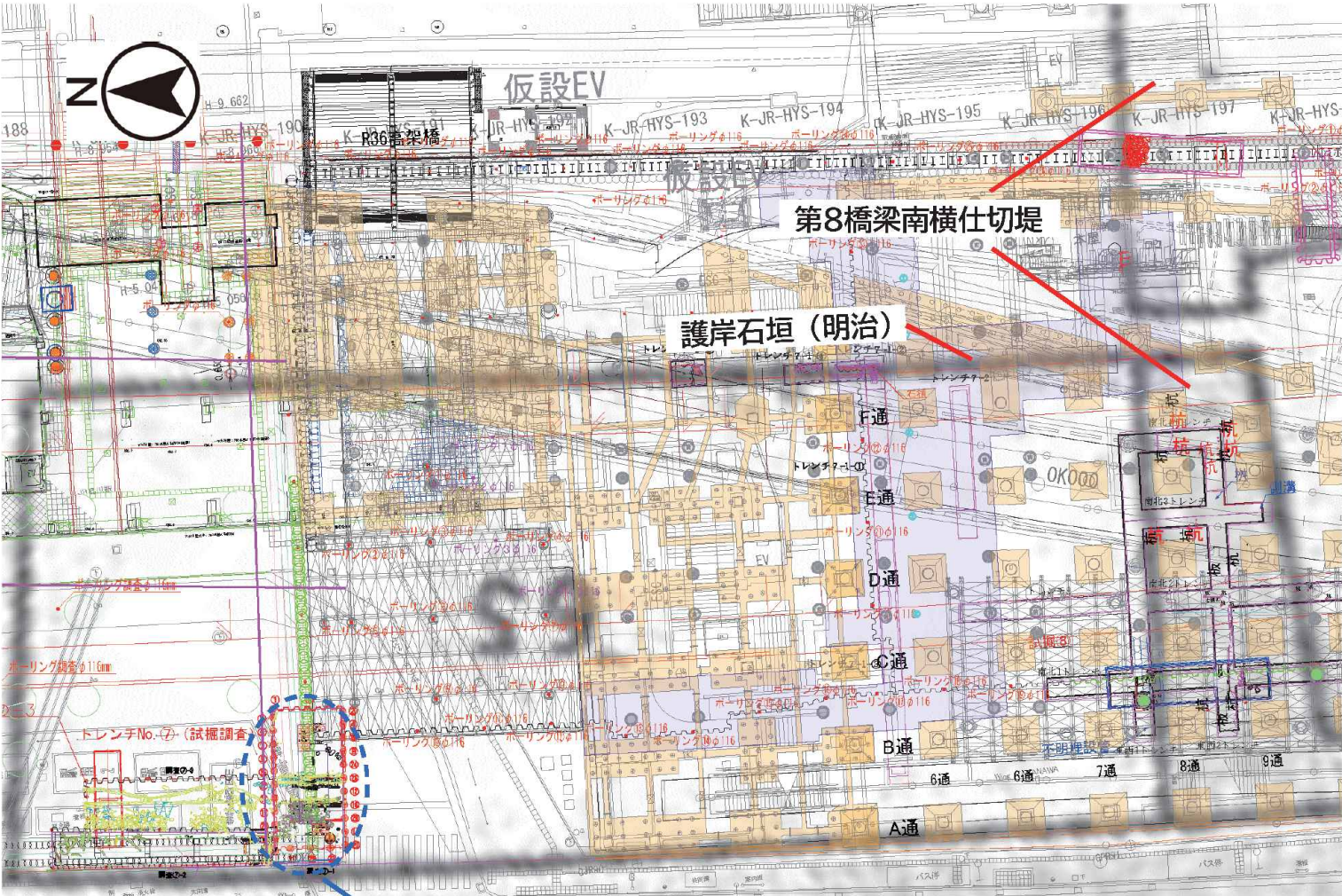


断面図②（A-A断面）



凡例

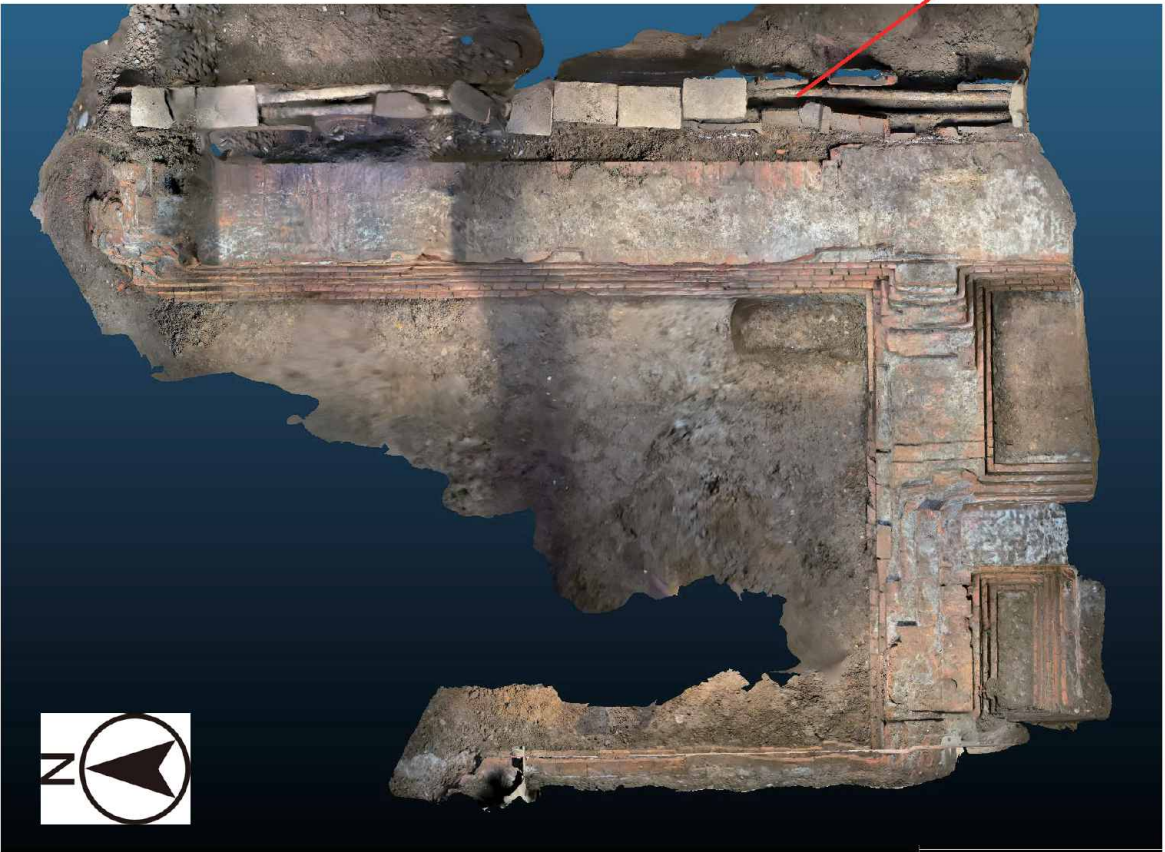
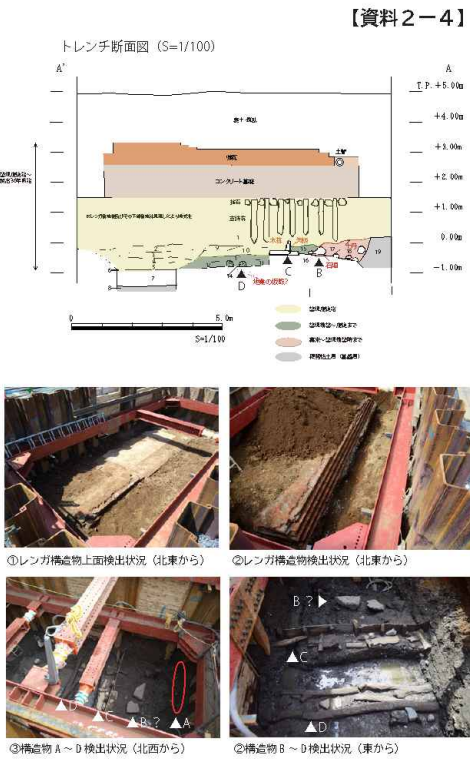
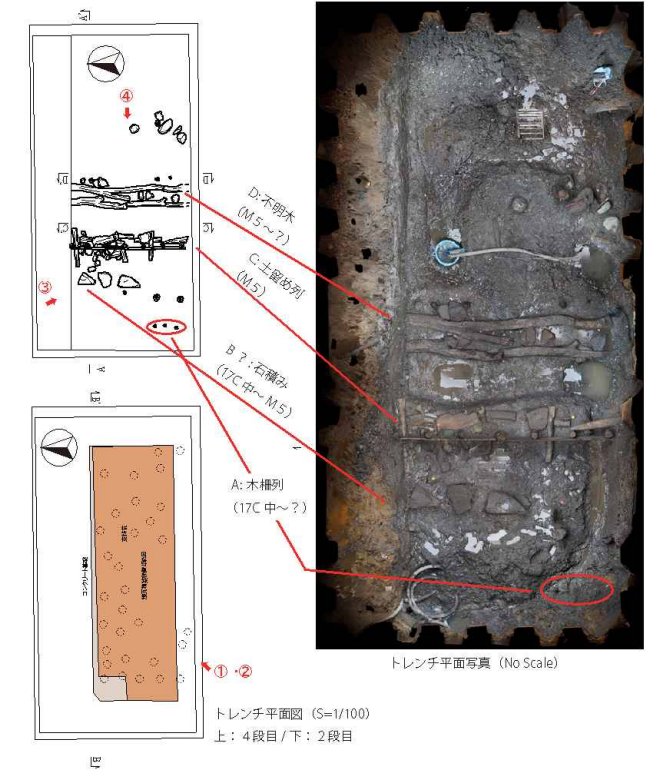
- : 掘削範囲
- : 仮設工
- ⊕ : 土留め杭（計画11本）
- ⊕ : 覆工盛替え杭（計画15本）
- : ボーリング調査済箇所



レンガ遺構検出位置

第46回高輪築堤調査・保存等検討委員会（2024年8月7日開催）資料を再掲

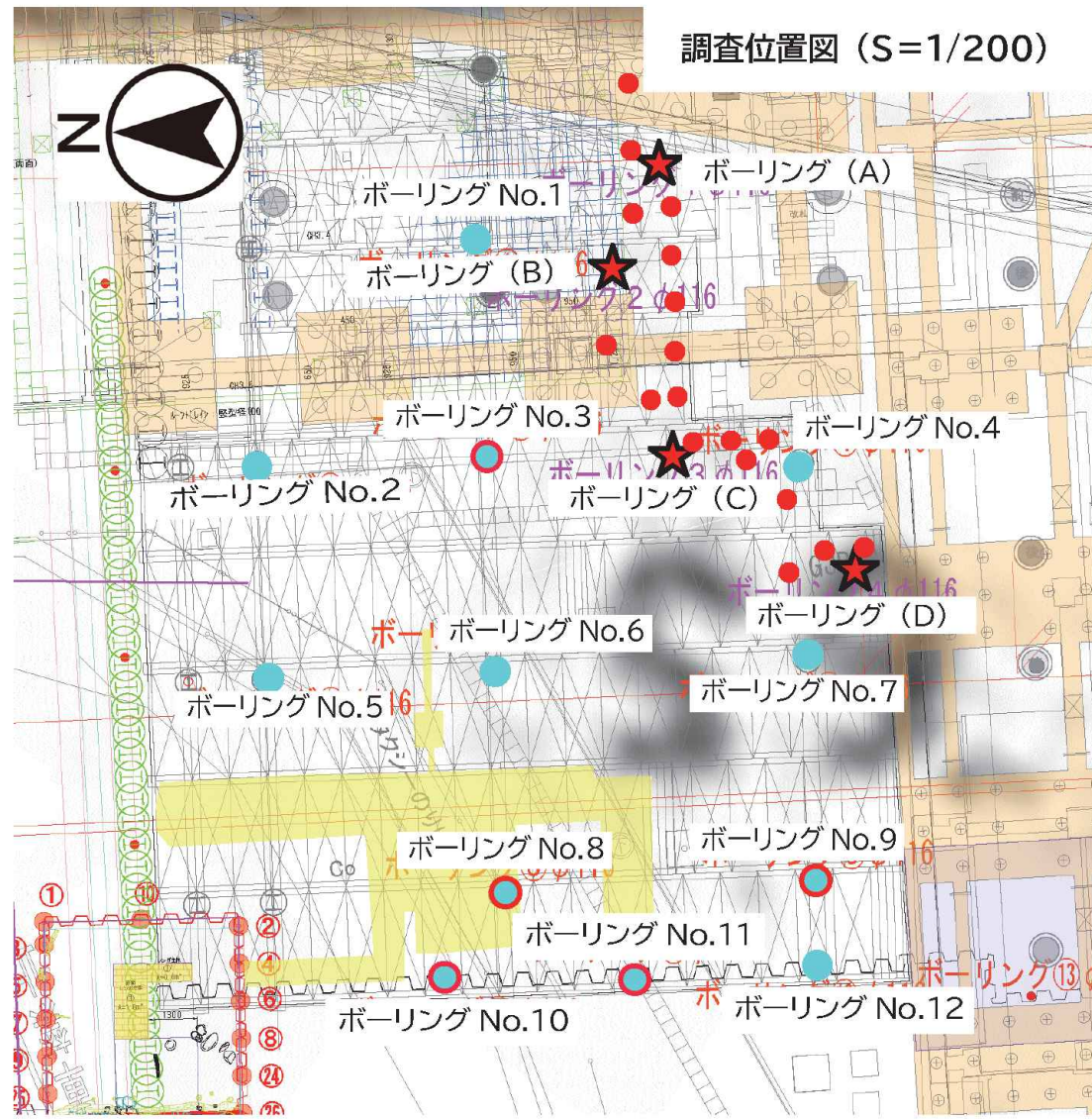
トレンチ7の調査成果について



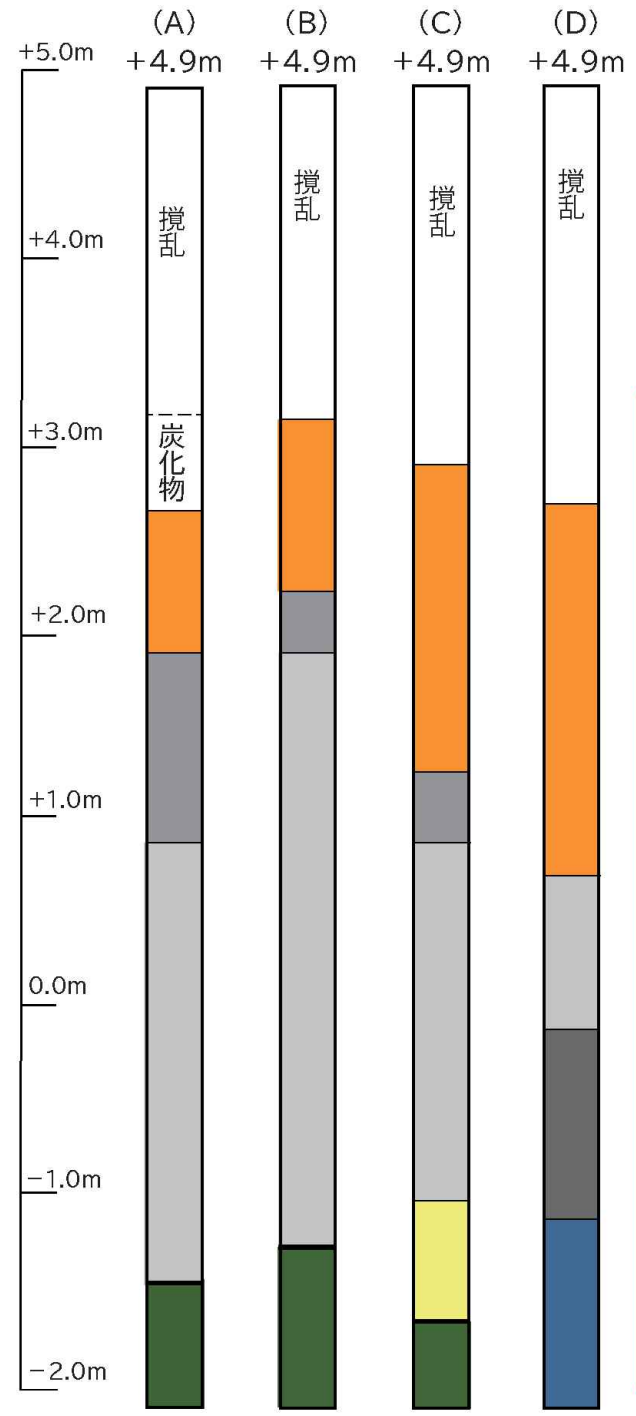
レンガ基礎検出状況（オルソ画像）



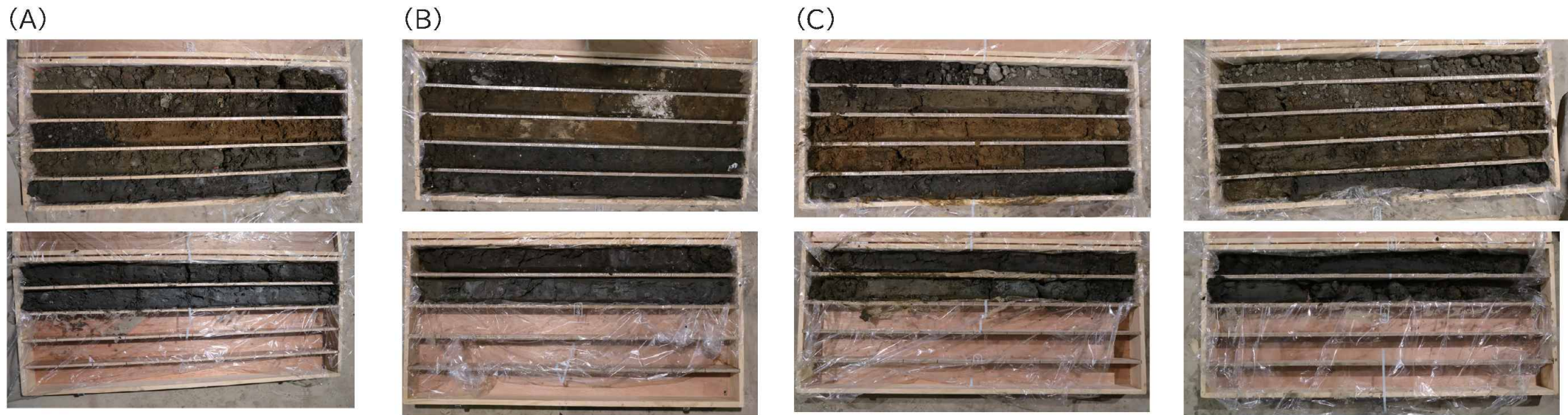
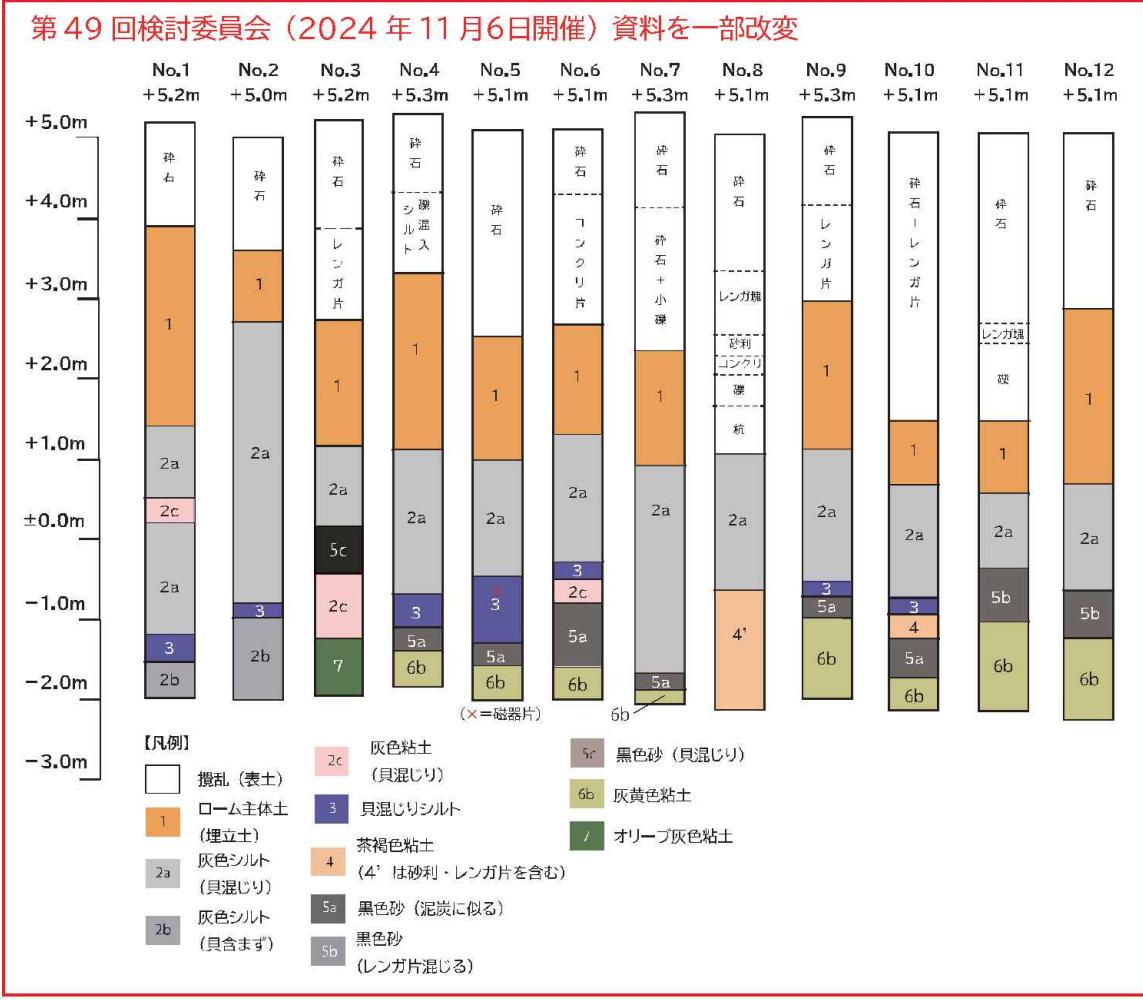
レンガ基礎検出状況 上：2026.6.17 撮影
下：2026.7.29 撮影



- 【凡例】
- ★ 今回調査地点
 - 第49回検討委員会報告地点
 - 土留め杭等（今回計画）
 - 構造物の一部と見られるレンガ片が見られた地点（第49回検討委員会報告）
 - 構造物の検出範囲



- 【凡例】
- ローム主体土（埋立土）= 1層
 - 灰色シルト（貝含まず）= 2b層
 - 灰色シルト（貝混じり）= 2a層
 - 黒色土（泥炭層）= 5a層
 - 黄褐色粘土
 - 黒灰色粘土
 - オリーブ灰色粘土 = 7層（自然堆積層）



【土留め杭等打設に伴うボーリング調査について】

- レンガ製の建物基礎は、Bブロックの西寄りで確認されていることから、土留め杭等施工予定範囲にレンガ構造物等が存在する可能性は低いと想定。
- 路面覆工杭打設に伴うボーリング調査の成果を踏まえ、①過去の調査地点から離隔があり②攪乱されている可能性が低い地点を選んで実施した。

【調査結果】

- 構造物の一部と考えられる木片、石片、レンガ片は確認されなかった。